

琉球大学学術リポジトリ

沖縄及び海外の武道コミュニティにおける沖縄語の復活

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2017-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kathrine, May Samantha, キャサリン, メイ サマンサ メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/30816

様式第7号

学 位 論 文 要 旨

学位論文題目

**Uchinaaguchi Language Reclamation in the Martial Arts Community in Okinawa
and Abroad**

沖縄及び海外の武道コミュニティにおける沖縄語の復活

琉球大学大学院

人文社会科学部

比較地域文化専攻

学生番号 128091B

氏 名 メイ、サマンサ・キャサリン

学位論文要旨（横書き楷書、ワープロ可、字数800字程度）

本論は、国際的な沖縄武道コミュニティにおける沖縄語（ウチナーグチ）の復活を考察する。沖縄語を含み、六つの琉球諸語がユネスコの世界危機言語地図に記載されている。日常生活のあらゆる場面で使用されている状況において、沖縄語を維持継承するには特別な動機と特定の使用領域が必要とされる。一つの可能性が、沖縄武道の領域である。沖縄空手と古武道の領域では、元々沖縄語を使った指導がされ、世界に広がった。沖縄及び世界における武道の実践コミュニティ（community of practice）に属する者は、沖縄語の知識を、武道の技能を向上させる手段あるいは沖縄文化に通ずる窓として見るだろう。本研究では、沖縄、英国、スロベニア、インド、イスラエル、米国及びカナダの実践コミュニティを対象に調査を行った。50名を対象とする聞き取り調査、204名を対象としたアンケート調査、Eメール書簡、及び参与観察によると、コミュニティは空手や古武道に指導に沖縄語を強く支持していることが示された。一部の道場では、限定的ではあるが沖縄語を使った指導を行っている。調査協力者の、沖縄語の知識、沖縄語を学ぶ動機、そして沖縄武道の特定の領域で沖縄語を使うことに対する関心をベースとして沖縄武道に関連した沖縄語を学ぶ教材の開発を始めた。沖縄語に堪能な指導者（師範）の協力のもと、沖縄語、日本語、英語を用いた教材（ワードシート）を作成し、沖縄及び海外の武道コミュニティに配付した。調査の結果は、教材を用いた結果、様々な沖縄語使用のパターンがあることを示した。教材を用いて、沖縄語の知識が深まったという回答もあった。調査結果と沖縄及び海外の沖縄武道実践家の関心からこのコミュニティにおける沖縄語の復活にむけた取組が実施されるべきであることが示された。